

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃ げきだんぷーく		団体ウェブサイトURL
	有限会社 劇団プーク		https://www.puk.jp/
代表者職・氏名	代表取締役 石田 伸子		
制作団体所在地	〒 151-0053	最寄り駅(バス停)	JR 新宿駅 南口歩7分
	東京都渋谷区代々木2-12-3		
電話番号	03-3370-3371		
ふりがな 公演団体名	にんぎょうげきだん ぷーく		団体ウェブサイトURL
	人形劇団プーク		https://www.puk.jp/
代表者職・氏名	代表 栗原 弘昌		
公演団体所在地	〒 151-0053	最寄り駅(バス停)	JR 新宿駅 南口歩7分
	東京都渋谷区代々木2-12-3		
制作団体 設立年月	1929年 12月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役 石田 伸子 柴崎 喜彦・西本 勝毅・滝本 妃呂 美・市橋 亜矢子・佐久間 弥生	団体構成員42名	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者 を置く	本事業担当者名	石田 伸子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	中山 正子
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	puppet@puk.jp		

<p>制作団体沿革</p>	<p>1929年創立、本年94周年を迎えた。日本最古で今なお活動を続ける、現代プロ人形劇専門劇団である。新宿にある人形劇専門劇場「プーク人形劇場は1971年建設、本年誕生52周年を迎える。この劇場を拠点に全国で公演を行う。小学校、幼・保こども園、児童館、図書館、公民館、文化ホールなど、多岐にわたる会場に合わせた作品で年間約600ステージの公演を行っている。海外人形劇の招聘・交流も積極的に行っており、招聘作品の全国ツアーは年々拡大している。国際人形劇フェスティバル大会には2008年豪州大会、2012年中国大会へ招かれ公演した。2018年と本年2023年ブルガリアソフィア人形劇場と共同制作「カモメに飛ぶことを教えたドラ猫の物語」を日本・ブルガリア両国で上演し、好評を博す。2022年、岩手県花巻市創設「第32回イーハトーブ賞」を受賞。</p>		
<p>学校等における公演実績</p>	<p>《宮城》関上小学校、色麻小学校、鹿島台小学校、坂元小学校、村田第二小学校 《長野》喬木第一小学校、筑北小学校、麻績小学校 《山梨》高根東小学校、《茨城》小張小学校、取手西小学校、豊郷小学校 《千葉》稲毛小学校、青菅小学校、第4日野小学校 《東京》愛和小学校、東秋留小学校、南小岩小学校、若木小学校 《兵庫》峰相小学校、《岡山》土居小学校、足守小学校、金浦小学校、後閑小学校 《鳥取》群家西小学校、岩倉小学校、佐治小学校、灘手小学校、智頭小学校 《鹿児島》西出水小学校、西始良小学校、三船小学校 など他多数</p>		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>《北海道》紋別養護学校ひまわり学園、拓北養護学校、北海道教育大学附属特別支援学校 《岩手》青山養護学校 《福島》相馬養護学校 《茨城》茨城大学教育学部附属特別支援学校、県立内原特別支援学校 《東京》調布特別支援学校、八王子特別支援学校、町田特別支援学校、小金井特別支援学校、幡代小学校幡代学級、墨田特別支援学校 《大阪》平野特別支援学校 《三重》くわな特別支援学校 《愛媛》愛媛大学教育学部附属特別支援学校 など他多数</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/rgfs81cVlks</p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	
<p>PW:</p>			

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 人形劇団ブーク】

対象	小学生(低学年)	○			
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生	○			
企画名	『てぶくろを買いに』・『くるみ割り人形』				
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	『てぶくろを買いに』原作/新美南吉 脚色・演出/柴崎喜彦 美術/入澤祥子 音楽/庄子智一 照明/阿部千賀子 効果/吉川安志 『くるみ割り人形』構成・演出プラン/川尻泰司・長谷詔夫 演出/大橋友子 編曲/宮崎尚志 美術/若林由美子 照明/阿部千賀子				
	公演時間 80 分				
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	音楽 他	
	該当事項がある場合	権利者名 庄子智一 他	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済	
演目概要	若くして亡くなった新美南吉の童話「手袋を買いに」は今でも多くの人に愛されている作品です。この物語の主人公王子が経験することを、観ている子どもたちは冒険、自立、つながりやきずな、共存や思いやり、様々な事を深く感じとってくれる事でしょう。チャイコフスキー原曲の美しいメロディにのって人形たちが踊りだす、人形劇と音楽を同時に、存分に味わってほしい、そんな願いが込められたのがこの「くるみ割り人形」の作品です。洗練された聞き覚えのあるバレエ音楽にのせて、多彩な遣いの人形たちが世界各地へと色彩豊かに、またあるときはモノトーンの世界でいざないます。				
演目選択理由	『てぶくろを買いに』は、心の奥底まで染みわたる深いドラマ性のあるストーリーを、ゆたかな美しい自然を装置や照明などを総合的に用い表現しています。また人形音楽バラエティとして音楽と、さまざまな素材や遣い方で数多く登場する人形たちの、多彩な動きで創り上げられた舞台が「くるみ割り人形」です。舞台を観ているうちに、世界のいろいろな国に誘われることでしょう。これらの演目は児童生徒さんが興味深く鑑賞でき、ゆたかな感性や想像力を刺激・育成されるものと企画しました。次代を担う子どもたちにとって「共に明日をゆたかに生きる力」が育まれることを願います。人形劇は総合芸術の結晶といわれます。人形美術・舞台装置・照明・音楽・効果音・脚本そして、それらをひとつにまとめ創る演出。人と人とは力を合わせ生きて成長していきます。たくさんの人が力を合わせ創る人形劇に触れることで、人が心ゆたかに成長すること重ね合わせ感じてもらえたらと願います。				
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	本公演で上演する劇中に、児童生徒さんが演目になんだ役柄の人形をつかって舞台に登場し、人形劇団ブークの人形・出演者と共演する場面を設けます。共演する児童生徒さんには、各々がつかう人形を自ら創作し、人形の操作、演じ方、表現や発声について学び体験してもらい、舞台の成り立ちとして演出、脚本、人形美術、装置、音楽、照明、効果音などが、総合的に折り重なり合っ創られる人形劇に興味関心を抱けるよう、さまざまな角度から伝えられるよう工夫する。当日リハーサルは不安を残さず安心して公演に臨めるよう細やかに行う。学友と劇団員と共に取り組む体験を経て、共に創り上げる喜び・仲間への信頼、一体感を体験する。鑑賞後に希望に応じてミニワークショップを行う。人形や装置のつかいかた、素材の説明、演じる工夫など、さらなる理解や表現への興味関心を深めることに努める。				
出演者	野田史図希・四方隆互・滝本妃呂美・亀井佑子・長瀬円美				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 5 名 スタッフ: 2 名 合計: 7 名	運搬		積載量: 2 t 車長: 5 m 台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～11時	13:30～14:50	15分	15時～16:30	17時

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
					22日	
	11月	12月	1月	計	32日	
	10日					

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	15名
		鑑賞人数目安	400名

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



てぶくろを買いに



くるみ割り人形



【公演団体名 人形劇団プーク】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	80名(1学年程度)
ワークショップ実施形態及び内容	<p>本公演で共演する児童生徒さんに事前指導を行う。シンプルで舞台効果のたかい「人形」の材料キットを作成し、事前に郵送する。また共演に使用する音源や楽譜も事前に送付し、聞いたり感じたりすることによって、創作意欲や舞台・人形劇への関心、表現することへ積極的に取り組めるよう導きます。当日1コマ目では、劇団の紹介をし、人形劇の説明から人形の製作へと進めていきます。身近な素材を元に、的確な道具を用い、効果的で丁寧な手順を踏むことによって、魅力ある動きが出来る演じる為の人形を創作できます。その発見や喜びを大いに感じ、創り上げられるよう、的確に指導説明助言に努めます。2コマ目では、実際に体育館の舞台で動きながら、共演する場面の練習をします。舞台用語の説明などしながら、表現することへの興味関心、楽しさを導きます。人形のつかい方、魅力的な表現方法、つかう人自身の身体の動かし方、発声のポイント、協調した動き方などを、一場面ずつ丁寧に、覚えて高められるよう 導きます。</p>		
ワークショップのねらい	<p>舞台に立ち人形をつかって人前で演じることは、貴重な体験になります。人形劇をするために舞台に立ち表現をする、そのための人形や小道具を自らの手で作ることで、誰のものでもない自分だけの人形への愛着、表現への探究心も高まります。もっと上手に動かしたい、どう工夫したらいいのか。ひとりではなく仲間とともに意見を交わし高め合うこと、などの目標をもって参加することにより、表現することへの意識がさらに高まります。共演を体験することでの達成感、充実感を得ることで、さまざまな学習機会において、積極的意欲的に取り組む姿勢に繋がっていくことでしょう。芸術文化団体と児童生徒さんとの共演により、公演自体の質を高め、児童生徒さん全員の忘れられない鑑賞体験に深まることへ繋がることでしょう。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>特別支援学校等での実施に際しては、さまざまな状況に応じて柔軟に対応する。人形製作の工程の簡略化なども、事前作業を劇団員があらかじめ準備する等、工夫をする。共演場面もアレンジをするなど、先生方とも相談をしながら、達成感充実感を得られるよう、状況に応じて行う。触れる機会の少ない、実際に舞台でつかっている人形や小道具に触れてもらうなど、質感手触りも楽しんだり、人形劇団ならではの交流・体験は大に行う。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

人形劇団プーク

】

①本事業に対する取り組み姿勢

この事業の特筆すべき点は、鑑賞のみならず、ワークショップや共演体験を通じ、舞台芸術に触れ、芸術家との交流があることが素晴らしい。共演する児童は気持ちを高揚させ生き生きと誇らしげに舞台上に立ち、学友の前で伸びやかな表現を果たす。自己肯定感や成功体験として心ゆたかな体験として、心に深く刻まれることでしょう。舞台空間と時間を共有し、学校全体でこの事業に参加する意義を大切にしてもらいたい。ワークショップでは、子どもたちのどんな吸収力、探究心、表現力、仲間を思いやる気持ち、それらの成長ぶりにいつも心うごかされる。子どもたちのやる気や可能性を最大限引き出すことが、私たちの役割である。舞台共演までの過程、積極的な取り組み、この体験こそがあらゆる学びの場での興味関心の広がり、想像力や発想力、豊かな心の成長・育成につながると信じている。そのため、私たちはより芸術性の高い作品づくりへの努力探究を怠らず、効果的で魅力溢れるワークショップの内容構成や、興味深い共演スタイルの多様性の工夫に、一層励み、より有意義な体験事業が行えるように、精進していきたい。

②事業を効率的かつ円滑に実施するための工夫

【窓口担当の設置】事業の開始から完了まで、関係部署、学校との連絡調整がスムーズとなるよう、担当者を一名配置する。学校との事務連絡・日程調整や、会計書類作成など一連の事務処理を、担当者が専任することで、事業全体の流れを明確に把握し、漏れなくより円滑な業務遂行を行う。担当者不在時においても、迅速に滞りなく対応が出来るよう、進行状況表や対応マニュアルの情報共有を明確する。

【アンケート・資料の有効活用】事業終了後に多くの学校から寄せられる児童感想文・アンケート等を貴重で大切な資料として、活用している。実施校での先生方や児童生徒さんからの生の声・感想・意見も、劇団内で情報を共有し、今後より一層、魅力溢れる演目作品の創造に生かし、また舞台共演の充実が図れるよう、ワークショップの内容・素材の工夫・作成手順の見直しなど改善に生かしていく。

【資料の充実と配慮】日程調整から打合せなど、実施校との連絡を綿密に重ねながら準備にあたり、一切の不安を取り除き、安心してワークショップ・公演に取り組めるよう、丁寧に慎重に進めていく。写真・画像・動画・DVD・音源など、書面だけでなくわかりやすい内容の資料を複数用意し、実施校に事業の理解を深めていただく。

実施にあたり電話・ファックス・メール等の手段を効率よく活用し、成果のある芸術体験の場となるよう、綿密な打ち合わせに努める。また現地・実施校の校風や教育の取り組みに合わせて、意向に寄り添うかたちで柔軟に対応する。公演当日は、天候による暑さ寒さなど影響を予測し、児童生徒さんらの体調への配慮を万全にし細心の注意をはらい実施にあたる。

ワークショップ・公演では児童生徒・教職員の皆さんが楽しく取り組めるような雰囲気構築していく。児童数が少ない実施校に対しては、保護者・近隣幼保園などの参加を促すなど、学校・地域との連携を柔軟に図りながら、本事業が文化芸術に触れる貴重な機会として有意義なものとなるよう最大限に努める。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫